

# 空間 空間 空間 空間 空間

左下から：武超《タークマター：細胞の中の記憶》(2024) / 張揚《浮世故事 扇女》(2024) / 田中宏和《曇を切り取る》(2022) / 新藤美希《春へ向かう船》(2024)



「空間」について考える。本展では4人の学生がこの課題に向き合います。平面表現における空間、立体表現における空間、インスタレーションという表現、作品を設置する展示空間、鑑賞者と展示空間との関わりなど、「空間」は美術作家の作品制作・発表と切っても切り離せない関係にあると言って良いでしょう。日本画・油画・彫刻・漆芸という異なる分野の学生が日頃から制作活動を共有するうちに、「空間」は4人に共通するキーワードでありながら、それぞれが思う「空間」には確かな違いがあることに気がきました。そこで本展では、展覧会名を「空間・空間・空間・空間」とし、各自の視点からの「空間」に対する解釈や表現をひとつの場所に集めることを試んでいます。本展に向けて「空間」について知見を深めながら、意見を交換・共有し、そこで得た気づきを制作や解釈に反映させてきました。その成果を博士後期課程1年の研究制作として発表いたします。どうぞご高覧ください。

金沢美術工芸大学大学院博士後期課程1年一同

## 新藤 美希 Shindo Miki (日本画)

1998年富山県生まれ。自分だけの理想郷である「非在郷」をテーマに日本画を制作している。博士課程ではその世界観を構築するために極楽浄土や理想郷に関連の深い「阿弥陀来迎図」を中心に、理想郷の研究をしている。そして最近では、富山で生まれ育った自身にとって特別で理想的な季節である春と冬の季節感が重要であると考え、作品に反映している。

## 田中 宏和 Tanaka Hirokazu (彫刻)

1998年岐阜県生まれ。自身のうつ病の経験から、立体表現・空間造形表現を中心に、自身の制作・展示を通じた自己や他者に対するケアの在り方を探求している。最近では自身の空間造形表現が鑑賞者にもたらす知覚体験による言葉を交わさないケアや、自身の制作活動を通じた空間やモノに対するケアについて取り組んでいる。

## 張揚 Zhang Yang (漆芸)

1996年中国山西省生まれ。中国文化の昔話を題材として前向きなメッセージを伝えることをコンセプトに、漆絵を施した現代漆器を制作している。装飾性と物語性を重視した漆絵と物語に基づく形体を兼ね備えた漆器を制作し、現代漆器にもうひとつのあり方を提示する。

## 武超 Wu Chao (油画)

1993年中国山西省生まれ。天然素材を使用した絵画やインスタレーションに取り組んでいる。「天人同一」の思想や現代科学の見地を取り入れながら、ミクロな細胞からマクロな宇宙まで全ての物事は同じシステムの上に成り立っていることを表現している。

会期 2025年2月21日(金)～27日(木) / 会期中無休  
開場時間 10時 - 18時 (最終日は17時まで) / 入場無料  
会場 石川県政記念しいのき迎賓館 ギャラリーA・B  
お問合せ 金沢美術工芸大学  
TEL : 076-262-3531 (代表)  
https://www.kanazawa-bidai.ac.jp



制作展詳細はこちら▶

### ◎公開講評会 (参加費無料)

講師 横山 由季子氏 (東京国立近代美術館研究員)  
大岩 雄典氏 (美術家)  
開催日時 2月22日(土) 14時 - 16時 : 横山氏  
24日(月) 14時 - 16時 : 大岩氏  
会場 石川県政記念しいのき迎賓館 ギャラリーA・B



## 石川県政記念しいのき迎賓館

石川県金沢市広坂2丁目1番1号  
TEL : 076-261-1111  
FAX : 076-261-1115  
駐車場有り(有料)  
https://www.shiinoki-geihinkan.jp

主催 : 金沢美術工芸大学 共催 : 石川県政記念しいのき迎賓館 後援 : 金沢市、北國新聞社

### ◎金沢21世紀美術館市民ギャラリーにて卒業・修了制作展開催

●大学院博士後期課程研究発表展・修士課程修了制作展  
開催日時 2025年2月15日(土)～20日(木)  
●卒業制作展  
開催日時 2025年2月23日(日)～3月1日(土)

卒業・修了制作展  
詳細はこちら▶

